教育委員会との連携による外国語教育の充実に向けた取組

滝川市立江陵中学校　学級数 14　（校長　山　中　晴　吾）

Ⅰ　実践の概要

滝川市では、次世代を担う子どもたちが国際的な感覚を身に付け、コミュニケーション能力や英語力を高めることができるよう、英検ＩＢＡを活用した外国語教育の充実を重点施策に掲げて取組を推進している。また、市教委が主催する「夏休み英会話学習」への積極的な参加の働きかけを通して、英語への興味や関心の向上につなげている。

Ⅱ　実践の内容

１　英検ＩＢＡについて

(1) 導入時から現在までの様子

生徒自身による英語力の把握と、教師による生徒の英語力を的確に捉えた授業改善を目的とし、滝川市では、英検ＩＢＡを市内全校にいち早く導入し、英語力向上に向けた取組を推進してきた。

本校では、検定の合否や検定料捻出の不安から受検を敬遠する生徒が見られていたが、英検ＩＢＡへの取組について学校内で共通理解を図りながら進めたことにより、生徒が英検ＩＢＡに意欲的に取り組むようになり、英検ＩＢＡの個票返却直後には、英検受検を希望するなど、自身の英語力を把握し、主体的に学習に取り組む生徒が見られるようになった。

過去５年の IBA 前後の受験者数（人）

実施回／級	5	4	3	準２	2
H29 第２回	5	4	3	0	0
H29 第３回	1	4	12	2	0
H30 第２回	0	5	4	1	0
H30 第３回	5	4	2	1	0
H31 第２回	2	4	3	2	1
H31 第３回	1	3	1	1	0
R2 第２回	1	3	3	0	0
R2 第３回	6	8	6	1	0
R3 第２回	1	3	4	3	1
R3 第３回	2	4	6	2	0

年度による違いはあるが、第２回（英検ＩＢＡ実施前）と第３回（英検ＩＢＡの結果配付後）の受検人数は、３級受検が増える傾向が見られ、４級や５級も含めると、全体的に受験者が増える傾向が見られる。このことは、前者が英検ＩＢＡの結果により主に第３学年の意欲を後押しし、後者は第１・２学年の自信をもたせたケースであると分析している。

(2) 活用方法

①　教科指導（主に授業における基礎的事項の習得）

・日常会話で使用頻度の高い単語や、そのジャンルについて振り返る。

・受検する級により出題される文法が決まっているため、各学年で学習する文法を振り返る。

②　英検受検に向けて（主に家庭学習の指導）

・英検ＩＢＡの結果を活用し、目標とする級に向けたアドバイスを行う。

２　市教委による「夏休み英会話学習」への積極的な参加

(1) 実施の経緯

今年度から夏季休業中に、１人１台端末を活用したオンラインによる英会話学習が市教委主催で実施され、本校生徒に積極的な参加を働き掛けている。

(2) 実施内容

ＡＬＴと生徒が１対１で、設定されたテーマやフリートークで会話を行う。実施回数は 15 分を１回とし、時間帯は生徒の希望を尊重した上で計２回実施している。

(3) 機会拡大への期待

３年前にコンピュータ室のパソコンが新調された際、Zoom による双方向の英会話を試験的に行ったが回線速度が遅く、積極的な利用ができなかったが、現在は、ネットワーク環境が十分に整備され、１人１台端末として導入された Chromebook の Google Meet により、ストレスを感じることなく、オンラインによる活動が可能となった。

本学習会に参加した生徒は、ネイティブ・スピーカーと会話する時間が保障され、英語での自己表現ができるようになった。

【夏季休業中のオンライン英会話学習の様子】

【デジタル教科書を活用し発音練習を行う様子】

【ペアで発音練習を行う様子】

Ⅲ　実践の成果（○）と課題（●）

○　市教委と連携した取組を推進したことにより、「個別最適な学び」の充実を図り、英語力の向上につなげることができた。

●　「話すこと」「書くこと」などの英語での表現活動に課題が見られることから、生徒に英語でコミュニケーションを図ることへの自信をもたせることができるよう、取組の充実を図る必要がある。

徹底した暗唱指導と書き取り練習による英語力の向上

北斗市立大野中学校　学級数 13　（校長　加賀　　亨）

Ⅰ　実践テーマの趣旨

本校では、英検 IBA の結果に基づき生徒の観点別の学習状況を把握することや、教師の学習指導の振り返りを基に、成果や課題を明らかにするとともに、生徒の英語力の向上に向けた授業改善に取り組んでいる。

Ⅱ　実践の概要

１　分析結果から

英検 IBA の結果分析から、概ね各学年相応の英語力が身に付いている等の成果が見られた一方、４技能のバランスのとれた英語力の向上や、努力を要する状況の生徒への手立てについての課題が見られたことから、生徒一人一人の学習状況等を踏まえた指導方法の工夫を行っている。

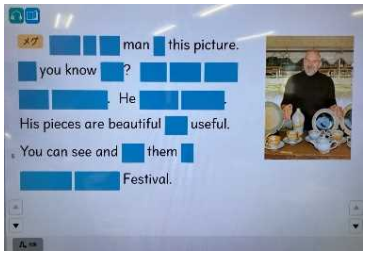
○　令和３年度英検 IBA の結果【１年生（F）、２年生（E）、３年生（D）設定】2021.10.23 実施

合格レベル	１学年（91 名）	２学年（68 名）	３学年（88 名）
準２級			9.1%
３　級		14.8%	40.9%
４　級		48.5%	34.0%
５　級	82.4%	35.2%	16.0%
５級チャレンジ	17.6%	1.5%	

総合英検レベル
第１学年→５級
第２学年→４級
第３学年→３級

２　読むことの指導

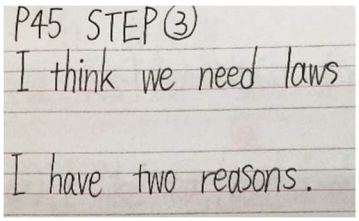
書かれた内容や文章の構成を考えながら教科書本文を音読したり、暗唱したりする活動のほか、暗唱した英文を活用し、綴りや語順などを意識しながら書く活動も行っている。また、活動時間を柔軟に設定したり、デジタル教科書を活用したりするなどの工夫を行っている。



【デジタル教科書の活用】

３　書くことの指導

全ての生徒が正確に英文を書くことができるよう覚えた英文の正しい綴りと文構造を確認しながら、書き取りを行うほか、単語・語順テストの実施や、書き取りを行う回数の設定などを工夫している。また、各単元で習得した表現を用いて、社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書く活動も行っている。



【生徒のノート】

４　話すことの指導

ALT の来校時は、全ての生徒が ALT と英語を用いて、やり取りを行うことができるよう学年に応じて、やり取りを行う内容や場面の設定などを工夫している。

５　個に応じた指導

全ての生徒が一人一人の学習状況に応じた達成感をもちながら、意欲的に学習に取り組むことができるよう、放課後の時間を利用し、個別指導を行っている。英語に苦手意識をもっている生徒に対してスモールステップを設定するなどの工夫を行っている。

Ⅲ　実践の成果（○）と課題（●）

○　英検 IBA の結果分析により、生徒一人一人の学習状況に応じた学習指導を展開できた。
○　学習内容の見通しをもたせることにより、主体的に学習に取り組む生徒が多くなった。
●　生徒の英語力を一層向上させるために、個に応じた ICT の活用方法を工夫していく必要がある。

英検ＩＢＡの取組を活用した外国語教育の充実

北見市立高栄中学校　学級数 15　（校長　小野寺　哲浩）

Ⅰ　実践の主旨

本校では、全ての子どもたちが国際社会の創り手として活躍するために必要な資質・能力を身に付けることができるよう、日々の授業で１人１台端末や学習者用デジタル教科書、英検ＩＢＡの結果を効果的に活用し、「聞くこと」「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」「読むこと」「書くこと」の４技能５領域のバランスの取れた指導の充実に努めている。

令和３年度「小・中・高等学校英語教育支援事業」の推進校として、校区内の小学校２校及び高等学校１校と授業実践や教育課程等の交流を行い、その成果や課題を踏まえた外国語教育を推進している。

Ⅱ　実践の内容

１　Small Talkと伝え合う活動の充実

英検ＩＢＡの結果から、日常的な話題について話されている内容を理解する力に課題が見られたため、小学校で実施しているSmall Talkを全ての学年で授業に位置付けている。

テーマに沿って、生徒が英語で伝える内容を聞いて、自分の気持ちや考えを英語で伝え合う活動を積み重ね、目的や場面、状況などに応じて即興でやり取りする力を育んでいる。活動の際には、特定の言語材料は提示せずに、生徒がテーマに沿って思考・判断し、適切な言語材料を取捨選択して表現する力を身に付けられるようにしている。

【Small Talk に取り組む様子】

また、放課後の時間を活用して英語担当教員による伝え合う活動に関する補充学習を実施し、個々の能力に応じた指導を行うことにより生徒の積極的な受検をサポートしている。

２　Retellingによる言語活動の深化

『読むこと』に関する言語活動として、読み取った内容を自分の言葉でアウトプットするRetellingの活動に取り組んでいる。

読解のみに終始することなく、ストーリーの要点を伝えたり、話題について自分の考えをペアやグループで伝え合ったりすることで学びを深めている。

【１人１台端末を活用する様子】

３　１人１台端末の効果的な活用

相手に興味・関心をもたせ、伝わりやすくする工夫として、タブレット端末などを効果的に活用している。

単元のまとめや振り返りの場面、家庭学習において、ｅライブラリを活用したリスニングチェックや自分のレベルに合わせて選択できる英検ＩＢＡの２技能テストにいつでも取り組めるよう、Googleクラスルーム内にリンクを掲載して、生徒が個別に活用できるＩＣＴ環境を整備している。

Ⅲ　成果（○）と課題（●）

○　実用英語技能検定の受検者、合格者数の増加

英検ＩＢＡの結果に基づいた授業改善に取り組んだことにより、言語活動の充実が図られ、生徒の英語力の定着と英検を受検する生徒数の増加につながった。

●　校区内の小学校の英検ＥＳＧの結果に基づく授業改善の推進

小学校卒業時の児童一人一人の英語力を把握し、９年間を見通した外国語の指導計画の改善と個別最適な学びを実現するための授業改善へとつなげていく必要がある。

	延べ受検者数（人）	合格者数（人）
５級	7	4
４級	17	13
３級	20	13
準２級	5	2

【R３・R４年度　実用英語技能検定第１回検定の結果】

英検ＩＢＡの結果を活用した「読むこと」の授業改善の取組

厚岸町立真龍中学校　学級数６　（校長　佐藤　敬喜）

Ⅰ　実践テーマの趣旨

本校では、令和２年度から英検ＩＢＡの結果を活用した授業改善に取り組んでいる。要点を捉えて読むことに苦手意識をもつ生徒が多く、昨年度の結果でも「読むこと」に課題が見られた。このような状況を踏まえ、英検ＩＢＡの結果を活用し、要点を捉えることに焦点を当てた「読むこと」の授業改善に取り組んだ。

Ⅱ　実践の概要

１　自分の思いや考えを表現する言語活動の充実

(1) 身に付けさせたい力の明確化

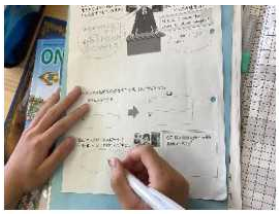
各単元の学習では、目指す生徒の姿を評価規準として設定し、言語活動を通して、どのような資質・能力を育成するのかを明確にした。

(2) 目的や場面、状況に応じた読む活動の設定

「外国人観光客に向けて、道東の観光スポットの特徴をコラムから取り上げて紹介しよう」など、英語を用いてコミュニケーションを図る必要性が感じられる目的や場面、状況を設定し、生徒が目的や場面、状況に応じて英文の要点を捉えて読みながらコミュニケーションを図ることができるようにした。

(3) 自分の思いや考えをもって主体的に英文と向き合う活動の設定

生徒が英文を読む際、書き手の伝えたいことを予想させたり、「北海道の動物や自然を守るために自分たちができることは何か」などのテーマを設定したりするなど、生徒が自身の経験や考え等をテキストの英文と関連付け、自分ごととして英文と向き合いながら思いや考えを表現し、伝え合うことができるようにした。



【思いや考えを表現する様子】

２　生徒の主体的な学習を促す教師の意図的な関わり

(1) 課題解決に向けた見通し

各単元のゴールに向けて、教師作成の成果物を提示したり、活動中に予想される困難さや学ぶ必要のある表現等を生徒に考えさせたりするなど、生徒が課題解決に向けた具体的なイメージをもつことができるよう留意した。

(2) 生徒が試行錯誤する時間の保障

単元の言語材料を指導してから言語活動に取り組ませるのではなく、活動中に生徒が躓いた内容に対し、必要に応じて教師が英文や単語を発音したり重要や語句等のキーワードに気付かせたりするなど、生徒が試行錯誤しながら活動する時間を大切にすることで、生徒が言語活動を通してよりよい表現に気付いたり、自身の表現を高めたりすることができるようにした。

【キーワードについて伝え合う様子】

(3) 英語表現の充実に向けた学習環境の整備

１単位時間の導入において、当該時間のねらいにつながる英語表現を教師と生徒でやりとりする時間を設けたり、既習の英語表現をICT等を活用して提示したりするなど、生徒間の英語による会話を増やすことができるようにした。

【ICT等で英語表現を想起する様子】

Ⅲ　成果と課題

１　成果

○　令和２年度、令和３年度の英検IBAの結果を受けて、生徒の英語力を適切に把握し、自分の思いや考えを表現する言語活動を中心とした授業改善に取り組んだことにより、「テーマや英文の内容について考えをもったり、テーマに対する重要な語句やキーワードを見付けたりすることができるようになった」と感じる生徒が多く見られるようになるなど、「読むこと」に係る英語力の向上が見られた。

○　生徒が試行錯誤しながら活動する時間を大切にした指導を継続したことにより、生徒自ら英語で伝えたいことを表現しようとしたり、よりよい英語表現に向けて生徒同士で意見を出し合ったりする姿が多く見られるようになるなど、英語を用いたコミュニケーションへの意欲の向上が見られた。

２　課題

●　精緻に読み取ることを目的として英文を読む生徒が見られることから、今後も、実社会や実生活における目的や場面、状況と「英文を読む」という行為のつながりをより明確にし、自分の思いや考えを表現する「読むこと」の授業改善に継続して取り組む必要がある。